

府中市生涯学習審議会（平成29年度第4回）会議録

1 日 時 平成29年10月26日（木）午後3時～5時

2 場 所 府中駅北第2庁舎5階 会議室

3 出席者（敬称略）

（1）委員12人

岩久保早苗委員、大谷久知委員、奥野英城委員、木内直美委員、岸定雄委員、佐野洋委員、関口美礼委員、相馬一平委員、寺谷弘壬委員、中村洋子委員、西原珠四委員、三宅昭委員
※北島章雄委員、中西裕子委員、長畑誠委員は欠席。

（2）職員6名

五味田文化スポーツ部長、沼尻文化スポーツ部次長、古田文化生涯学習課長、平野文化生涯学習課長補佐、宮崎生涯学習係長、諫山事務職員

4 報告事項

（1）配布資料の確認

- ・資料1「府中市生涯学習審議会（平成29年度第3回）会議録（案）」
- ・資料2「審議会開催日程等（案）」
- ・資料3「生涯学習に関する市民アンケート（案）」

（2）前回議事録の確認

各委員に校正を依頼した前回議事録（案）について、市民に公開することが了承された。

（3）今後のスケジュールと審議の進め方について

（事務局）では、お配りした資料2をご覧いただきたい。こちらは、「審議会開催日程等（案）」となる。第1回目の審議会で、「今後の会議の進め方について（案）」という資料を配布し、日程や内容の案を示した。そちらが資料の左側に載っている校正前となっている。そして第2回、第3回の審議会では「諮問事項の検討について」という大きなテーマで皆様に意見交換をしていただく中で、様々な貴重なご意見をいただいた。そこで、第4回からは、もう少しテーマを絞り、より具体的な審議をしていただけるよう内容とスケジュールを組み直したので説明させていただきたい。左側が第1回にお示しした内容で、真ん中から右側の太枠で囲ってある部分が校正後の内容となる。新たな開催日程と主な審議内容というところで、審議内容については、生涯学習推進計画の関係と、来年度府中市が幹事市になるため、東京都市町村社会教育委員連絡協議会第5ブロッ

ク研修会の関係を分けて載せてある。主な変更点について説明させていただく。

まず1つ目だが、当初の予定では第4回の全体会が終わった後に、数名で構成された小委員会を2回程開催し、小委員会でとりまとめた内容をまた全体会で諮っていく予定であった。しかし小委員会は開催せず、引き続き全体会で審議を行わせていただきたいと思います。理由についてだが、前回の第7期審議会では二つの小委員会にわかれて審議を行っていた。今期もそれに倣って小委員会を予定したところであるが、第7期では諮問が二つ出されていたために小委員会にわかれた。しかし、今期は諮問が一つのため、全体で協議を進めた方がより活発な審議が行われ、皆様の意見が反映されると判断したので、小委員会の開催をやめて全体会にさせていただきたいと思います。

そして主な変更点の二つ目だが、今年度中に生涯学習に関する市民アンケートを実施したいと考えている。理由についてだが、市民アンケートを実施することによって、市の生涯学習の現状や課題を把握することができる。また、審議会での皆様の意見に加えて広く市民の声を聞くことによって、より活発な審議の題材とさせていただくことができ、計画書にも反映できると考える。後ほどご案内させていただくが、本日生涯学習に関する市民アンケート（案）を作成してあるので、そちらの内容について皆様に検討していただきたい。

資料2の主な内容のスケジュールのところ、生涯学習推進計画関係についてだが、今年度中はアンケートをメインにやっていき、そこから現状や課題が見えてくると考える。それを分析するという形で来年も準じて進んでいく。第5ブロックについての具体的な内容については、具体的な内容は来年度以降にはなるが、今年度から少しずつ話をさせていただきたい。資料2の説明は以上である。今後はこのスケジュールで進めさせていただきたいと思うが、何かご不明な点やご質問等あればいただきたい。

(副会長) 開催日程については、ここに提案された通りに日程を進めたいと思うが、最終的に第5ブロックの研修会の目標を平成30年に向けて取り組む部分もあるのでこういう日程となった。質問についてはいかがか。無ければこの日程で進めさせていただく。それでは審議事項に入るので、進行を会長に交代する。

5 審議事項

(1) 生涯学習に関する市民アンケート（案）について

(会長) 第5ブロック研修会の前にアンケート調査について検討あるいは建設的なご意見をいただきたい。項目も沢山あり、そして対象をどうするかというようなことも決めていかないといけない。アンケート調査方法も出来たらここで意見を述べていただき、次回の12月の会議では最終的に決定したいと考えている。アンケートの左の部分は色が違っているが、一つずつ事務局に読んでもらい、委員の皆様からこうした方が良いのではないかな等の様々なご意見をいただきたい。それでは事務の方から説明をお願いします。

(事務局) お配りした資料3をご覧ください。こちらは、先ほどお話しさせていただいた、「生涯学習に関する市民アンケート(案)」である。他市の内容などを参考にしながら、事務局の方で素案を作成したものである。まず資料のつくりについて説明させていただく。一番上に用語解説として「生涯学習」と「学び返し」について説明をしている。次に左の列から「質問No.」、「テーマ」、「設問」、「選択肢・自由記述」と記載している。テーマについては色分けしている。上から「属性」、「生涯学習の現状など」、「生涯学習の成果」、「生涯学習の施策に対する今後の意向」、「学び返しについて」、「まとめ」となっている。テーマごとにご審議をいただきたいと思う。

最初の「属性」というところで、「性別」・「年齢」・「職業」・「お住まいの地域」について質問をする。アンケートを発送する対象年齢についてだが、生涯学習は一生涯ということで、広い意味で子どもから大人まで対象になると思われるが、義務教育の15歳までは学校教育の範疇であるため、16歳以上を対象に調査したいと考えている。「属性」の設問について、ご意見等があればいただきたい。

(会長) 対象及び調査方法その分類については、いかがか。

(委員) 配送方法や対象はどうなっているのか。

(会長) それを決めていきたい。これまでにインターネットで見たところ、いろいろな市や県も行っている。例えば府中市民だけに限るとか、あるいは20歳以上とか18歳以上もあるが、16歳というのは今珍しい。そういう意見を述べていただきたい。府中市民だけではなく、府中市で働いていらっしゃる方も対象にしたかどうか等、いろいろあると思う。

(委員) アンケートを取る場合は、その対象が、アンケートの目的と関連して非常に大事だと思う。関心のある市民だけからアンケートを取るというような格好になってほしくない。公平に皆さんが意見を出してもらえるような取り方が必要。サンプリングするのであれば、かなり考えないと、その結果に基づいた議論が難しくなるのではないか。

(会長) そこに意思が働いたら良くない。それらについては、事務局から説明いただく。

(事務局) ただいまのアンケートの取り方、考え方について説明させていただく。アンケートについては、まず対象者を2,000人と予定している。そして具体的に誰を対象にするかだが、無作為に市の方で2,000人を抽出し、アンケートをこちらから郵送して、そして返信用の封筒を入れて回答いただく。通常、市の方でアンケートを取る場合はそういった方法をとっている。それに準じた形の対応ということで実施したいと考えている。

(委員) これは、現状を分析するためのアンケートなのか。

(会長) その通りである。来年の10月の答申を出さないといけないので、それまでに結論が出て、生涯学習推進計画にも反映して参考にしたい。

(委員) 見ていて思ったのは、確かに今は何もしていない、あるいは参加していない人たちが多いと思う。それは、どれだけ参加していないか等で分析できると思う。しかし、その人たちが何を求めているかということについての内容が比較的少ないのではないかと考えた。「何々をやっていますか」という質問は良いと思うが、やっていない人たちが「何々をしたいと思いますか」という部分での何かニーズを知りたいあるいは確認したいというのであれば、現状分析のみならず、何もやっていないのであれば「何がやりたいですか」、「どんな風に関心がありますか」というニーズの部分の問いかけも中にはあって良いと思う。質問の内容の右側に選択肢があるので、それを丸ごと使って、「この中で何がしたいか」、「どんなことに関心があるか」というような問いかけをしてみる、あるいはご自分で書く、あるいは教えてみたいと思うのであれば「どんなことを教えてみたいか」ということを言いたいというのがある。そういうニーズを確認したいあるいは聞いてみる。何もやっていないということは分かっても、その人が何を考えているかということをし少し問いかけとして持つことができたらいいのではないか。もう少し浅く、ニーズがこうでこうのことを考えている人もいる、何もしていない人の中にもいるのだということを入れると意味があるものになるのではないかと見ていて思った。

(委員) 今おっしゃった内容は、カラーで書かれた何番目かに入っていると思う。そこ検討すればよいのではないか。

(会長) 市によっては、そこに重点をおいている。恐らく府中市も、例えば2,000人に出して回答者が1,000人だとして、そのうちの6割方が何らかの形で加わっているけど、4割方加わってないと、大体その比重になると思う。やってみないと分からないが、6割方やってないという人がいて、その方々に将来何をやりたいかと聞くのは大変重要なことである。その場合、どのような形で加わっていくかということも「生涯学習の成果」のテーマまで待って、最後のところでもう少し比重を上げるかどうか検討する。

(委員) 属性の面で性別の欄についてだが、最近アンケートに答えたことがあるが、男、女以外にも、「回答したくない」というのがあり、LGBTの方に配慮されている。もし市の方で可能であれば、「回答したくない」というのを付け加えても良いのではないかと思う。今の発言に対して黄色の一番上の所で「聞いたことがある」、「聞いたことがない」という質問があるが、これは聞いたことがある人向けの設問であり、聞いたことがない人に対しての設問がないように感じられるので、多分そのことをおっしゃっているのではと思う。

(会長) 男と女ともう一つ分類するとしたら何を分類するか。

(委員) 「回答不能」や「回答したくない」という選択肢を入れてほしい。

(会長) 回答しないというのは、全部回答しない人がいるかもわからない。

(委員) そうではなく、性別についての話であり、性別を回答したくないという人もいらっしゃるのではないかと思う。

- (会長) それはどういう項目にするか。
- (委員) 「回答したくない」という項目はいかがか。
- (会長) 回答したくない人ということか。
- (委員) ウは答えたくない人。
- (会長) 男も女も言いたくない人。
- (委員) アが男、イが女、ウは答えたくない人を追加する。
- (会長) 性別を答えたくない人。それでいいか。
- (委員) 最近はそのようなアンケートが多い。回答したくないという選択肢があった方がよい。
- (委員) あった方が良いかは、私は分からないが、あえて書く必要があるのか。
- (委員) 細かいことは良いのではないか。
- (会長) 差別になってはいけない。
- (委員) システム的に難しいということであれば、追加する必要はないと思うが、選択することが苦痛な方もいらっしゃると思うので、可能であれば追加した方がよいと思う。
- (会長) どんなアンケート調査でそのようなものがあるのか。
- (委員) いろいろなアンケートが送られてくるシステムがあるが、例えば自動車を持っているか、最近飛行機を使ったかとかそういうアンケートに回答するとき必ず性別と年代と職業を回答する。その時の選択肢は男・女・それ以外となっている。
- (会長) 入社試験や入学試験、あるいはオリンピックではまだ第3者は出てこない。
- (委員) 私も団体でアンケートを取ったときに、男女以外の選択肢も付け加えてほしいと指摘されたことがある。
- (会長) 意見として取り上げて検討したいと思う。
- (委員) 可能であればお願いしたい。
- (委員) 職業のところだが、社会人という職業はないのではないかと。職業名で書き換えていただきたい。
- (会長) 職がない人はどうするか。
- (委員) 無職というのがあるので、社会人のところを有職者としていただきたい。有職者とするとはパート、アルバイトも入ってくるので、有職者（パート・アルバイトを除く）にするなどで対応するといいいのではないかと。
- (事務局) 検討させていただく。例えば、社会人の中でも有職者の中で正規職員や非常勤といった分類になるのではないかとと思うが、そこは事務局の方で検討させていただく。
- (会長) 詳しいアンケート調査では、公務員や教師などいくつか並べてあるが、それらをひっくるめて多分社会人とされたのかと思う。
- (委員) 生涯学習というその目的に対して分別することが有益な項目でないといけな。生涯学習に関して影響がなければ、有職者とまとめるとか正規とか非正規

とかというようにしていけばいい。

(会長) 個々でまだご意見があると思うが、次に進んで全体像を掴まえていきたいと思う。では、黄色のテーマ「生涯学習の現状など」を事務局に読みあげていただく。

※事務局より、テーマ「生涯学習の現状など」について、設問、選択肢・自由記述について読み上げ。

(会長) 最後のテーマまで読み上げていただいた方が、全体像が分かるし、すべてのテーマと一緒に検討した方が良いと思うので、このまま最後まで読み上げていただきたい。

※事務局より、テーマ「生涯学習の成果」、「生涯学習の施策に対する今後の意向」、「『学び返し』について」、「まとめ」について、設問、選択肢・自由記述について読み上げ。

(会長) いろいろ踏まえて、建設的なご意見をさらに続けてもらいたいと思う。別に上から順番ということではなく、どこのテーマと言ってお話しくだされれば良い。

(委員) 表現の方法について、設問文の枠の中でア～コとかサというように記号参照しているところがあるが、ここは文字で書いた方が良いと思う。前に戻って探すことになるので。ア～コは「していない以外」と回答した方、サというのは「していない」と回答した人、と書いた方がアンケートを受ける人にとっては良いと思う。以下も同様である。

(会長) そうしたら(1)、(2)とした方がいいか。

(委員) 前の設問の選択肢のところに戻らないといけない。そうではなくて、問の2でア～コということは、「していない以外」と回答した方のみでいいのではないか。

(事務局) 今回は、審議会の皆様にお示しする形でこういった表現になっている。実際にはページをめくってお答えする形になる。その時にはご指摘の通りになるので、便宜上このような形で表記していることをご理解いただきたい。

(委員) まず、一番上に生涯学習の定義というのがある。これは、一般の人はほとんど知らないのではないか。そして、文章全体が固いので、もう少し柔らかくしないと駄目だと思う。それからもう一つ、アンケートをやっていくと、私は国際交流サロンで日本語を教えているが、これはほとんど回答できないと思う。書くのがすごく難しい。一般的に、生涯学習について相当知ってないと無理だと思う。だからそういう意味で、ここは固いと思う。何か生涯学習の定義の所をもう少し柔らかく変えてみたらどうか。

(事務局) 確かに活字で一つ一つの単語が載っているということもあるので、ご指摘を踏まえて入りやすい・見やすい説明については、もし委員さんの中でご提案が

あればお伺いしたい。なければこちらの方で少し検討させていただきたい。

(委員) 日本語の世界では、優しい日本語というのが問題になっている。官庁の文章は難しい。もう少し優しく書かないと書けないと思う。

(会長) どういう風にした方がいいか。「生涯学習とは、lifelong educationといって生涯に渡って行う学習である」というような短い定義で良いか。

(委員) 生涯学習について聞くと言うが、生涯学習とは何だろうと思ひ、構えてしまうと思う。

(会長) 文章も長すぎる。

(委員) 何を言っているかあまり分からない。

(会長) 要するに生涯学習に関するアンケートで入れているのは生涯学習とは何かとか、あるいは「学び返し」というのはどういう言葉なのか、という説明があった方がいい。

(委員) もう少し柔らかくしないと分からない。

(委員) この定義だと、学校で勉強することも生涯学習となる。

(会長) いろいろ規定があり難しい。アンケート調査の目的はこうだと示して、その言葉の解説を少し入れた方がいい。最初にあまり固い文章があると嫌気がさす人もいるかも知れないので、もう少し入りやすくした方がいい。

(委員) 生涯学習と聞いて何をイメージしますかというような、生涯学習の定義についてのアンケートも良いのではないか。定義はそれぞれの人が思っているものもあるかもしれないので、最初に定義を聞いてみるのも良いのではないか。

(会長) 最後の方に、生涯学習とはどういうふうに受け止められていますかと聞いても良いと思う。

(委員) 生涯学習とは何ですか、と我々がもし言われて答えるとしても、十人十色になったりするかもしれないと思うので、ある程度認識を入れさせておく必要はある気がする。

(委員) アンケート全体でQ 1、10、14、19が細かく分類項目の最初の設問になっているが、ここで否定的な意見、例えばQ 1だと「聞いたことがない」と答えた人はこの後の設問に答えにくい。Q 10の「活かす必要はない」と回答した人は関心が低い人だが、この人に対してはQ 13で「なぜ活かす必要はないと思うか」という風に問いかけをしている。しかし、Q 1の「聞いたことがない」、Q 14の「してみたいとは思わない」、それからQ 19の「知らない」と回答した人たちに対しての問があまりないので、ここをもう少しフォローした設問を作った方がいいのでは。関心のある人は熱心に読んで回答してくれる気がするが、そもそも「知らない」、「聞いたことがない」、「やる必要はない」と思っている人は、「なぜそう思うのか」、「もしどういふものであったらやりたいと思うのか」など、そういった意識調査を入れた方が参考になるのではないかと思う。

(会長) 事務局から回答をお願いします。

(事務局) 先ほども話が出ましたが、生涯学習と聞いてどんなイメージをしますかというようなところもありつつ、この入りの段階で終わってしまうことは機会もったいないし、そういったところを活用する必要があると意見を伺って感じた。そういったことも踏まえ、行っている方だけではなく、バランスよく内容等を検討させていただきたい。

(会長) 「なぜしたくないですか」等聞いた方が良いか。

(委員) 逆に「なぜしてみたくないのか」というのが知りたい。「自分がやっているが還元する気が無い」、「してみたいとは思わない」、「学び返しについて知らない」と答えたときに、「学び返し」という言葉から何を連想したかとか、知らない人・興味ない人が何を考えているのかを知る設問があるといい。

(会長) 「時間が合わない」、「場所が遠い」、「なぜしてみたくないのか」という項目はないか。

(委員) してみたいと思わない人に対する設問はない。

(会長) これも自由質問の方が良いか。簡潔で沢山あると思うので。

(委員) 先ほど言ったように、生涯学習というものの定義がこれを書いている側にきちんと伝わっていない場合、あるいはイメージが湧いていないのだとしたら、「してみたい」という言い方は、「何をしたいのか」、「していないのか」ということが分からなくて、「してみたくない」という回答になってしまう事もあるのではないか。例えば、「こういう生涯学習を行っていますかどうですか」、「これらについて何かしてみたいと思うか」というような先に物事があるということイメージさせる。そのうち「これがしたいですか、したくないですか」というような聞き方をする必要があるのではないか。聞く側に生涯学習とは具体的にどのような事かをある程度イメージしてもらい、「してみたくない」という言い方よりは、「どれをしてみたいか」と聞くと良いと思う。最初から否定的な意見を引き出してしまいうような書き方だと、分からないのに言われてもというようなことがある。アンケートが元々何のためにあるのか、どんな人達からどんな事を知りたくて、そのアンケートをやっているのかというところがはっきりしている必要がある。

(会長) アンケート調査の常として、いきなり電話で聞いたら分からないとなるが、郵便で出すと回答の時には何回か見直して回答が少しは多くなるという経験がある。それも大した差はないと思うが、おっしゃる通りだと思う。「生涯学習の現状など」のテーマのところ、「よく利用する市の施設はどれですか」という設問があるが、いろいろな調査を見ると、必ずしも市の施設に限定しないで民間の施設で生涯学習の勉強をしているとか、極端な場合は自宅で集まってやっているということもあるが、そういうのは考えなくても良いのか。

(事務局) 全ての施設を網羅できる選択肢ではないと思っている。従って、選択肢の最後の「その他」という形で対応できていると考えている。

(委員) 今の話に関連していることだが、例えばいろいろなところに公園があるが、

そういう公園の中で自然に発生的にやっているような方は、施設といったときに「その他」欄に書こうと思いつくのか。そして、その上の問2でいろいろと生涯学習について例示的に書いており、この中で「やったことがありますか」とある。このようなイメージが、最初のこのアンケートに入るときにイメージできれば、やっていたのは生涯学習なのかと気づいて、「したことがある」を選ぶ。これに気がつかないと、「していない」を選んでしまうのではないか。この上の解説だけでは、どんなことが生涯学習なのかというイメージがあまり湧いてこない。問2まで行くと、こういうこともみんなそうなのかとわかるように感じる。その辺について何か工夫ができないか。

(委員) この用語解説のところで、生涯学習を、このアンケートではどのように考えているかが書かれていない。学校教育や家庭教育まで含めてしまうと、なんだか分からなくなってしまう。このアンケートでいう生涯学習の範囲、簡単な定義をまず示さなければいけないと思う。そして、問1の、「生涯学習という言葉聞いたことがありますか」という質問については、皆さん聞いたことはあると思うので、聞く意味があるのかどうかわからない。

(委員) 問1自体は良いと思うが、問1 4は特になくても良いのではないかと思う。聞いたことがあるかないかというのは、つまりそれぞれ生涯学習という言葉について理解があまりない、あるいはそこまで知らないということだと思うので、そんなにその下の質問に答えられないというわけではないと思う。しかし、生涯学習について分かったつもりで質問したら答えてもらわないといけないので、すごく難しいかなと感じた。聞いたことがあることが前提で話を進めた方がいいのではないか。

(委員) 問1に関しては、用語解説と一緒に組み合わせれば良いのではないか。生涯学習とは、一般的には人々が生涯に行くあらゆる学習のことで、あなたは生涯学習という言葉を知っていましたか、意味を知っていましたかのような質問にすれば、知らなかった人は用語解説と一緒に意味を知ることができるので、これ以降のアンケートに回答することができるのではないか。

(委員) 問1は、生涯学習という言葉の認知度を知りたいわけでないとしたら、「興味がありますか」というふうに変えた方が良いのではないか。

(委員) そう思う。

(委員) 認知度を知りたいのであれば良いと思う。

(委員) これは府中の生涯学習に参加したかどうかを知りたいのではないか。

(委員) だとしたら、「生涯学習に興味がありますか」とか「参加したことがありますか」とかにした方がいいのではないか。

(委員) そうしたら、生涯学習事業に関するアンケートとか、府中市の生涯学習に関するアンケートというように、もう少し限定してアンケートの目的がそこにあるというふうにしないと難しいと思う。「生涯学習とはなんだと思いますか」というような問いかけをするよりは、府中市の生涯学習あるいは生涯学習事業

についてのアンケートであるという感じで、最初からそれについてやっているということがわかればそうなのかなと思うが、最初のタイトルの部分で分かりづらと思う。

(委員) 逆に認知度は確認しなくて良いのか。つまり、市民のどれくらいが生涯学習そのものを知っているか、知らないか、関心の有無が調べられるので、単語の認知度を聞くという意味では「聞いたことがある」、「聞いたことがない」で良い気がする。そもそもこの質問の目的が何か分からないから議論になっているが、作成された方の意図は何か。

(事務局) まず、最初の段階の設問については、特にこの設問の回答に特化した分析というところは考えていない。しかしながら用語解説というところから入っているので、一番最初に聞いてみたい質問というのがこちらのイメージである。

(委員) 僕がやっている府中国際交流サロンには153名もいる。そして、これは立派な生涯学習活動であるが、生涯学習として意識していない人が大半である。そういう人が生涯学習をやっていないということになると、ほとんどの人がやっていないということになる。なので、府中市の生涯学習に関する市民アンケートというタイトルにして、生涯学習の定義としてもう少し具体例を書いたら良いのではないか。例えば、生涯学習センターで講演会をやっているの、そういうものに参加したかというように具体的に書けばいい。そうしないと一般的で新聞社のアンケートみたいでよく分からない。そこのところはやはり全てがそこら全部派生していると思う。あと、「聞いたことがない」と回答した人はほとんど書くことがなくなってしまうと思う。

(事務局) 今それぞれ委員さんから貴重なご意見をいただいた。それを踏まえて、まず生涯学習という用語の漠然とした捉え方、その説明の仕方、用語解説、そこのところはもう少し工夫をしたいと思っている。そういったところの入り方や、一番目の設問の内容についても少し工夫をしたいと思っている。

(委員) アンケートの形式が分からない。この設問が出てくる前に、こういう目的でこのアンケートを取っているというような説明が入るのか。

(会長) それは入れると思う。推進計画に反映させるとか、第三次推進計画に是非反映させたいと思うとか。事務局はいかがか。

(事務局) そういった案内をさせていただき、アンケートにご協力いただく。

(委員) その部分もある程度今後の中身に関わってくるので、そういうものがあるのであれば知りたいと思う。回答する方がそれを読んでから答えていくわけなので、中身の項目やいろいろなものに全部それが関わってくる。

(委員) 何のためにこれをやるかという事をまず伝えてやっていただく。では、何のためにこれをやるのかという部分がどうなっているのかを知りたい。

(会長) 一番初めに出しておくべきである。

(事務局) このアンケートは、今日だけではなく次回も審議していただく。事務局の考え方としては、まず方法となるところについて、ご提案させていただき、ご

意見をいただこうと考えていた。最終的に内容を確定する際に、こういった形で提出するという鑑というか文章を考えていた。今回は、実際に市民に送るアンケートの形をお示しして、イメージにさせていただければと思う。

(委員) 何を知りたいかはそれを読むと分のかかるのか。

(事務局) そもそも目的は、この計画が来年度で終わるにあたり、次年度の計画に反映する中で、皆さんのご意見をいただきたいという趣旨の案内になると思っている。

(委員) 今のような趣旨でアンケートを実施しようとする、要するに市民が積極的に生涯学習というのに参加していただく為に、市民がどう考えているのかという事を知りたいと思う。そうすると一番重要なのは、市民が何をやりたいのかを確認することだと思う。これを見ると、それらしい質問というのは問15だけである。しかもこれは分野を聞いている。「どんな分野を望みますか」というだけなので、「あなたは生涯学習としてどんなことを勉強したいですか」というように、自由に書かせるような項目を作った方が良いのではないか。

(会長) これは西原委員がおっしゃったことと関連する。例えば、青森の市の委員会で一番多かったのは語学である。それが本当に生涯学習なのかということもあるが、語学、その次に歴史、郷土というような学習の延長にある。ここにはあまり学校でやるような学習などは入っていない。趣味が中心となっている。おっしゃる通りいろいろな分野があると思うが、それは拾い上げないといけない。特に郷土の歴史なので、やりたいと思う人は意外といえるはずである。

(委員) 先ほど目的の事について中村委員から意見があったが、私も同感である。計画の事よりも、「府中市は生涯学習センターや美術館、郷土博物館など、あるいは公園をいろいろ整備して皆様方の学習機会を確保している」というような文言があって、それで今後市民の方々の生涯の支援の為にどうしたいというようなアンケートに対する回答の配慮を、出来るだけ肯定的な所に位置付けておいた方が良いのではないかと思う。簡単な、「聞いたことがない」とか、「活かす必要はない」という回答はどうするのかという話が出たが、やはり我々としては生涯学習を積極的に支援したいということが全体の前提だと思う。出来るだけ細かな要望を受け止められるような、そして積極的にアンケートに答えたいと思えるような目的にしてはどうかと思う。

(会長) どれくらい貢献したいかというこちらの意思を出して、そしてそのために参考にさせていただきたいとすべきではないか。第三次推進計画に是非その結果を織り込んでやりたいというようなことを予め書いた方が良い。回答してもらう際は表紙にそういうことを書いて、何枚かになると思う。郵便で送られる場合は、そういうのは是非やった方が良い。

(事務局) まず、分野のところについては、ご指摘の通り、もう少し項目の細分化は検討させていただきたい。そして、自由記述での回答については、今回対象が2000名を予定している中で、実際には5割弱くらいの回答としても、それを

集約するのは難しいのではないかと捉えている。したがって今回のこの回答例については、項目の細分化というところで検討させていただきたい。

また、アンケートの実施目的の説明文についてだが、今年は市民文化振興計画の更新時期であり、アンケートを実施している。そこで、そのときのアンケート説明文をご紹介させていただく。「市民の皆様には、日頃から市政にご協力いただきましてありがとうございます。市では、平成20年度に府中市文化振興計画を策定し、総合的に文化芸術振興のための取り組みを推進してきました。このたび、平成29年度で10年間の計画期間を終えるため新たな府中市文化振興計画を策定に向けて準備を進めているところです。つきましては、今後の施策を進めるうえでの貴重な基礎資料として、市民の皆様の文化芸術活動の状況を把握し、市の施策に対するご意見を伺うため、アンケート調査を行うことになりました。お忙しいところ大変恐縮ですが、調査につきましてもご理解いただき、ご意見をお聞かせください。ご協力よろしくお願い申し上げます。」このような形で別の計画ではご依頼申し上げているので、先ほどご意見いただいたところについては、そういったところも含めて、内容をこちらで用意させていただければと思う。

(会長) 最後のテーマまでご意見等いろいろいただきたいと思う。

(委員) この用紙でアンケートは出す予定なのか。

(事務局) あくまでも今日はこのアンケートの内容をご審査という事でこの形になっている。先ほど申し上げた府中文化振興計画の時のアンケートの依頼文や、最終的に体裁を整えた形を次回には皆様にお示ししたいと思っている。

(会長) 自治体によっては、漫画や絵が沢山入っているところもある。

(委員) テーマ「生涯学習の成果」のところについて、これは恐らく「学び返し」ということを非常に意識されてここに入れたのではかと思うが、これはむしろ「学び返し」と分けた方が良い気がする。それで、その現状のアンケートにして、その次に「生涯学習の施策に対する今後の意向」にした方が良いと思う。

(会長) テーマ「生涯学習の施策に対する今後の意向」をテーマ「『学び返し』について」の下に持っていった方が良いかもしれない。

(事務局) 今のご意見をいただき提案という事になるが、「生涯学習の成果」と「生涯学習の施策に対する今後の意向」のテーマの順番を変えるということはいかがか。

(委員) 結果的にどうなったのか。このまま生涯学習で行くのか、それとも生涯学習事業とかにするのか。

(会長) 限定しないといけない気がする。

(委員) 限定した方が良いと思う。

(委員) 質問全体が「生涯学習に参加しましたか」、「生涯学習をしたことがありますか」と書いてある。これがもし「生涯学習事業に参加したことがありますか」、「生涯学習自体に参加したいですか」というようになると、かなり具体的に

ってはつきりすると思う。「生涯学習をしたことありますか」というのは自分で書いている定義からいえば、学校の活動や勉強すら生涯学習活動であり、こういう質問は失礼ではないかと思う。

(会長) 限定するのは難しい。例えば府中市の生涯学習に関するアンケートとなると、府中市が指導しているような、あるいはイニシアチブをとっているような施設を使ってやっているかという事になる。市民の生涯学習という事になると、おっしゃる通り学校も個人の家も民間施設も含まれる。例えば民間施設で音楽をやっており、これは生涯学習だと言われれば、その通りだと思う。

(委員) 生涯学習事業であるとか、そういう「府中市が行っている、あるいは市が場所を提供している生涯学習事業に参加したりしましたか」というのであれば、設問項目自体がかなり具体的になってくると思う。そこがどのくらい限定したものにするのかという事が見えていないと、この設問を具体的に一つ一つ検討していくにあたって、あまりにも抽象的になってしまい、話し合いにすらならないのではないかと思う。

(会長) あくまで府中市がやるので、府中市と府中市民が中心にならないといけないと思う。そして、その他のものも包んでいけば一番良いと思う。

(委員) 例えば、今まで努力されてきた市民カレッジがあるので、「市民カレッジをやっていることをご存知ですか」という質問がないとまずいのではないか。また、「生涯学習フェスティバルを知っていますか」、「生涯学習センターへ行ったことがありますか」というような設問が良いのではないか。そういう質問項目がもう少しあったら入りやすいのではないか。要するに、目的は何かと言ったら、今まで生涯学習が、市民カレッジもそうだが、何とかしないといけないというのが本当にニーズだと思う。それをやるためにこのアンケートが応援してくれるというそういう立場である。そうすると、そういうことをきちんと意識して改革を早くやらないと、今から10年経ったら60～65歳の団塊の世代の人たちが75歳になる。その人たちをどうやってボケないようにするかというのがテーマだと思う。だからそういうことを考えた場合に何をしなければいけないのかというのは、切羽詰まっていると思う。だから、そういうことに響くアンケートにしていただけると良いのではないか。

(事務局) 今のご指摘の部分は、ある意味生涯学習を啓発する部分にもなるかと思う。ただ今回は、アンケートの題名の部分と、ご意見をいただいている具体的な事業を絞った形というものもあるが、アンケートのつくり的には、まず色分けの分野を考えているところである。そうなると、題名は絞るよりも何々に関するという括りになると捉えている。生涯学習に関するだけでは少し抽象的なので、「府中市の」というような言葉が入るかもしれない。しかし、具体的なアンケートの項目、分野で考えたときには、やはりこの題名についてはこういう形が良いのではないかと捉えている。そしてアンケートを分野ごとで内容等を皆様の方でご審議いただくことになるが、こういったアンケートを基に具体的に現状

や課題がある中で、「生涯学習フェスティバルを知っていますか」と質問し、生涯学習フェスティバルの認知度はこれくらいである、ふちゅうカレッジの認知度はこれくらいというような具体的な部分は計画に反映してくるかと考えている。まずは枠組みの中でどう現状・課題を捉えるかというアンケートであるというようなイメージをいただければと思う。

(委員) 私はどちらかというと、「生涯学習とは一般的に人々が生涯行うあらゆる学習です」という説明がそんなに分かりにくくないと思っている。むしろ知らない人に、家で本を読む事も生涯学習なのだということを知ってもらうのは啓発という意味で有効ではないか。つまり、このアンケートに回答すると同時に、生涯学習に対する意識を深めてもらうことができるのではないかと。

アンケートの内容については、黄色い部分はある意味属性というか生涯学習に対する認知度がどれくらいなのかという確認なので、属性調査みたいな部分があるのではないかと解釈している。

アンケートの目的は、この審議会にとっては今後の計画を策定するための基礎資料とすることなので、一番重要なのはテーマ「生涯学習の施策に対する今後の意向」のところだと思う。それが4問しかないなので、ここにも自由記述の何かを1問設定した方が良いのではないかと。また、私たちが今後の計画を練る時に何を知るべきなのかということをもう少し検討した方が良いのではないかと。また、細かいことだが、問17と問8の回答欄がほぼ同じで、「市の生涯学習に対する情報をどこで得ているのか」と、「今後力を入れるべきだと思うものは何ですか」となっているが若干違って、自治会の回覧とかが消されているが、そこは何か意図があるのか。

(会長) 前半は提案で、後半は質問で間違いないか。

(委員) もう一つ聞きたいことがある。問26の市民の生涯学習サポーター制度というところについてだが、問19は「『学び返し』という言葉を知っている、聞いたことがあるが意味は知らない、知らない」と書いてある。これと同じように問26に関しても、質問文を「ご存知ですか、または利用したことがありますか」にして、「利用したことがある、知っているが利用したことがない、知らない」とした方が認知の度合いが測れると思う。「知らない」というのをに入れてほしい。生涯学習をしているという自覚があって「学び返し」をしているという自覚がある人でも知らない人がいるのではないかと。

(会長) 「知っている、知らない、または利用したことがある、したことがない」というように回答を二つにした方が良いということで合っているか。

(委員) 利用したことがある人は知っていて、知らない人は利用したことがない人だと思うので、「利用したことがある」、「知っているが利用したことがない」、「知らない」という3択。問19の設問の回答も同じなので、その形を踏襲したらどうかと。

(会長) では問19の方に合併した方が良いか。

- (委員) 細かいところだが、合併ではなく、パターンを統一して欲しい。
- (委員) 細かいというよりは特にこのサポーター制度だけを取り出しているところにやはり問題があると思う。
- (委員) 市民カレッジとかそういったことも聞いた方が良いかもしれない。
- (委員) もし書くのであれば、「市の施策事業としてやっている出前講座などを知っていますか」というようなことと全く同じレベルの話だと思う。
- (委員) 「学び返し」としては書かなければいけないと思う。
- (委員) 「学び返し」はほとんどの人が知らない。僕も聞いたことがない。その認知度が低いから、「学び返し」については要らない。
- (会長) しかし、これは平成11年に、第2次府中市生涯学習推進計画に出ている府中市の言葉である。
- (委員) それは知っているが、一般的に知らないのではないか。
- (委員) アンケートの目的は今までの10年を振り返ってどれくらい認知してもらっていたかということの確認となる。
- (委員) やはり府中市は「学び返し」というキーワードを10年間一生懸命宣伝している。これがそこまで浸透していないということであれば、考えなければならぬ。
- (委員) 「知らない」という回答が多い場合、何がいけなかったのかの話になる。そのためにも必要な設問である。
- (委員) 「生涯学習の施策に対する今後の意向」とあるが、そこの設問をもう少し増やしたらどうか。結局はそれを知りたいと思う。現状については、いくら聞いても変わらない。この状況を戦略的に突破しないといけないと思う。これでは、何も変わらないということもあり得る。
- (委員) 「生涯学習をした」という部分がこのままなのかというのが気になっている。私的には、家で生涯学習していることやそれぞれの人が努力していることを調査したいのか、それとも市民が生涯学習にどんな形で参加しているのかという目的の部分で、「生涯学習をしたことがありますか」とか「どんなふうに行っていますか」という部分はかなり抽象的過ぎると思う。家で勉強しているとか、家で本を読んでいるとか、あるいは図書館に行っているとか、そういうのを聞きたいのではないとすれば、「参加したことがありますか」とか、「生涯学習にどのような方法で参加しましたか」という感じの方が良いと思う。足を運んでどこかに行った、足を運んで何かをしたということを聞きたいと思うので、生涯学習という定義もあるが、聞きたいことが生涯学習をしたというよりも何か違う形で府中市自体がやっていることに対する市民の今までの状況であるのであれば、参加という言葉に変えた方がイメージもはっきりするのではないか。
- (会長) それは府中市がアンケートをやるから府中市が介在してないと意味をなさないと。

- (委員) 例えば設問の間5についてだが、「生涯学習をしていない理由は何ですか」と書いてあるが、「していない」というと少し難しいと思う。もしそこを明確にするのであれば参加していない理由というようにした方が良いのではないか。
- (会長) 関口委員と同意見ということか。
- (委員) それは違う。私は本を読むことでも生涯学習をしているというふうに解釈しているので、それでいいと思っている。例えば、「市の講座に参加している・参加していない」ということで選別するのでなく、家で本を読んでいて生涯学習をしているが、市の講座には出かけていけない人はなぜなのかというところを検討するためのアンケートだと思っていたが、そうではないのか。
- (委員) 「参加していない」と書けば、家でやっけていても外には行っていない理由は何ということだと思ふ。知りたいことが参加するかどうかなのであればそういう書き方をすれば良いと思う。
- (委員) 講座は参加することだが、生涯学習は自分で自発的にやることなので参加するとかいうことではないと思う。
- (会長) 中学生くらいから生涯教育をやっていると言っても生涯教育なのかと思う。将棋の藤井君は将棋が強くなったから、一生涯続くだろうと思うが、僕らも小さいとき将棋をやっているが、それは生涯教育とは違う気がする。これはやはり、府中市の将棋の趣味の会があって、そこでやっているというのであれば、強いかわ弱いかは別として、楽しんで将来をやるということで数の内に入る。だからその辺を明確にしないといけないと思う。最初のテーマ「属性」のところを見ていただきたい。ここに年齢で「A 16歳～19歳」という項目がある。対象は無作為で選んだ2,000人で、1,000人弱くらいの回答があると思うが、16～19歳というのは中学校卒業して高校それから大学一年目の時である。普通は20歳から対象で、今は選挙権も認められているので18歳からも調査対象にするが、16歳は少し早すぎるという感じを持った。皆さんはいかがか。
- (委員) 良いと思う。
- (委員) ヤングというところを考えると、この辺から調査を始めても良いのかもしれない。
- (委員) しかし一般的ではないと思う。16歳～19歳に生涯学習と言っても全然ピンと来ないのではないか。
- (会長) 高等学校はほとんどの人が行き、運動も好きな勉強も好きな本も読むと思う。
- (委員) 学校教育も生涯学習とここに書いてある。
- (会長) 起点の問題になったら難しくなる。
- (委員) 先ほどから生涯学習の定義が一番上に書いてあって、ご意見もあったように家庭教育、学校教育それから企業内教育いわゆる趣味というか普通の文化活動スポーツ活動全部含めて生涯学習という定義で、生涯学習は家で本を読むこと

も全部含む。そうすると、誰でも生涯学習をしていると思う。それを認識はしていない。自分が生涯学習をやっているという意識はないと思うので、生涯学習に何か事業があってそこに出かけていくことだけがそういうことに参加しているとか言っているという意識になってしまう可能性はあるが、両方が聞けるような設問を考えていただけたら良いと思う。皆さんもやっているということを知ってもらい、そのうえで市ではこんなことをやっているのだから、これをやったことがあるか、知っているかとかそういう感じの皆さんを引き込んでいく感じの設問をうまく入れられたらと思う。

(会長) その通りだと思うが、これは生涯学習審議会で今検討している。極端に言ったら、赤ちゃんも母親から生涯教育を受けている。そこまで対象にするのは難しい。中学生は中学校が、青少年問題は青少年審議会が府中であって、そこが詳しく調べている。私たちがやるのは、65歳くらいをいかに包み込んで、病気をせずに自分の将来性を持つかが重要なことで、重点をそこに絞ってやらないといけない。ある程度時間も限られており、私たちがやるべきことだと思う。

(委員) 「参加している」、「参加していない」という言葉に関しても、恐らく学校教育を除いた、社会人学習などを対象にしてアンケートを取った方が良いというご意見なのでは。

(委員) 個人的に思うのは、いわゆる義務教育というのは誰かから受けている教育であり、むしろ自分から主体的に学ぶということを生涯学習という意味で捉えている。自分がやった将棋も一つの趣味であり、主体的に自分から進んで学ぶということも含む。

(委員) 全体に、生涯学習の認識が各委員で違うので議論になっているが、私はここにある通り、あらゆる学習、生涯に行うあらゆる学習が対象だと考えたので、これで良いと思っていた。しかし、社会人に対してもっと重点的に絞ってアンケートを取るべきだということだと話が違うので、そこを少しまとめた方が良く思う。事務局の意見をお聞かせいただいてもよろしいか。

(事務局) 質問にお答えしてないので、そこを整理させていただく。問8の選択肢が問17の選択肢と差異があることについては、確かに問8の「町会、自治会の回覧」は市からの情報手段の一つであるので、問17の方に追加させていただく。問8の「友人・知人からの紹介」というのは市からの情報手段ではないので、問17には載せないこととする。問26は生涯学習サポーター制度についての認知と利用との両方を加味した質問にした方がいいということで、そのように修正させていただく。それから「学び返し」については、質問しても知っている人が少ないというご意見については、割合を確認したいという意味もあるので、この辺については質問させていただきたいと考えている。それから問2の「生涯学習をしたことがあるか」を「参加したことがあるか」にするかについては、「参加したことがある」という言葉にすると、受動的なイメージがつくので、委員さんからもご意見があったように、自らやる場合あるいは受動的に

参加する場合、それを全て含めて聞きたいという意味でもある。

最後に対象年齢については、16歳というのは確かに義務教育が終わった方という認識である。元々が社会教育という分野、あるいは生涯学習センター立ち上げ時の主催講座については、16歳以上の市民を対象としていたので、そういった意味で今回16歳以上を対象にしたが、先程紹介した文化振興計画の場合には、18歳以上の市民を対象にして抽出している。いわゆる義務教育といっても、やはり高等学校の教育を行った方が多いので、18歳以上をアンケートの対象にしている他の計画もある。その場合には10代は18歳、19歳しかいないので10代から20代で一括り、30代で一括りにというような形にした例もある。

(会長) 大体相対的に回答いただいた。

(事務局) ご意見をいただいて、18歳でも良いという気がする。

(委員) もう一つ、テーマ「生涯学習の施策に対する今後の意向」のところについてご意見をお聞きしたい。

(事務局) テーマ「生涯学習の施策に対する今後の意向」のところは確かにもう少し質問があった方が良くと思うので、少し検討させていただきたい。

(委員) 一つ追加した方が良く思う。生涯学習に参加した方は沢山いる。参加した理由は何かということは非常に重要。それは何故かと言うと、ずっと活動行っている中でキーワードは仲間作りである。年を取ってくると仲間がいなくなってくるので、仲間を作らないといけないから来る。していない理由よりは参加した理由の方が知りたい。

(会長) 仲間作りをやりたい、将来に活かしたいなどといったアンケート調査をやっているところもある。答えやすいこともあるので、そういうふうに分けた方が良く思う。

(事務局) アンケート調査の対象年齢は何歳からにしたらよろしいか。

(会長) やはり私は18歳以上が良いと思うが、皆様はいかがか。

(委員) 18歳でいいと思う。

(事務局) それでは18歳以上とさせていただき、10代と20代を一括りにしてよろしいか。

(委員) これは、具体的には第二稿みたいなもの出てくるのか。

(事務局) 冒頭、スケジュール変更についてご説明させていただいたが、その中でお示しの通り、次が12月に開催予定となっている。そこで校正確認していただいて最終版を作成したい。今日のご意見を踏まえて校正したものを事前にお送りした上でご確認いただき、12月に最終確認という流れを予定している。

(委員) もし可能であれば、生涯学習そのものに関する調査をしたいという話があったが、私は府中市が行っている事業に関して市民がどのように参加して、あるいは何故参加しないのかという事もとても大事なことだと思う。だからそれについての質問が無ければ、実際に市としてどんなことを行っていけば良いのか、

どんな事業がみんなのニーズになっているのかという現状を把握出来ない気もするので、生涯学習現状などという項目はあって良いと思うが、生涯学習事業に対する参加、皆さんの状況を調査したいという意味で府中市の生涯学習事業に対する現状についての項目を作っていたきたい。そして、「参加していますか」、「参加していませんか」といったはっきりとしたそういう項目があると良いと思う。もしこれが生涯学習そのものに関するものだとするならば、家で本を読むことも、あるいは具体的にラジオ聞いたりテレビをみたりということも項目にしないといけないと思う。

(会長) この会の主な仕事は、第5ブロック研修会についてと第3次生涯学習推進計画についてである。これまでの日程より早く、来年の10月に教育長に答申を出さなければいけない。それをまとめて、推進計画ということで斬新なものを出したいと思っている。前回の委員会では、「学び返し」についてかなり深い話し合いを行った。今回は第3次生涯学習推進計画についてしっかりと決めなければならないので、次回はアンケート調査についてだけではなく、そちらの方にも話し合いができたらと思う。

6 その他

(1) 平成29年度第5ブロック研修会について(10/28)

(事務局) 明後日、28日(土)の午後2時から、三鷹市の生涯学習センターで第5ブロック研修会が開催される。事前に社会教育委員の皆様に出欠確認させていただいており、ご出席いただくのは寺谷会長、三宅副会長、奥野委員さん、岸委員さん、関口委員さん、中村委員さん、西原委員さんとなる。事務局は諫山と宮崎で出席する。来年度府中市が幹事市になる時の参考にもなるので、ご出席の皆様には、是非次回の審議会で報告をお願いします。

(2) 平成30年度第5ブロック研修会に開催候補日等について

(事務局) 平成30年度第5ブロック研修会の開催候補日等について、まだ先の話になるが、会場予約の関係があるので、開催候補日等について先にお話させていただく。例年、各ブロックで10月から11月頃に開催している。会場は、前回府中市が幹事市の時には生涯学習センターで実施したので、来年度は今年オープンしたルシーニュ5階バルトホールでの開催を検討している。そのまま懇親会も同じバルトホールで行いたいと考えている。しかし、他の行事との兼ね合いもあり、会場の仮予約ができていたのが、来年平成30年の10月27日(土)と11月17日(土)の2日間である。他の5市にも予定を確認しなければならないので、日程を決定するのは来年度に入ってからとなるが、皆様にはこの2日間の予定を空けておいていただきたい。時間については、決まり次第お伝えさせていただく。この第5ブロック幹事の際は、以前からお願いさせていただいており、社会教育委員さんだけでなく、審議会委員の皆様にご協力

いただきたいと考えている。

(3) 次回の開催について

候補日として12月18日(月)と12月22日(金)の午後3時からを提示して、予定を伺った。会場は同じく、府中駅北第2庁舎5階の会議室。欠席委員に確認をして事務局で調整し、改めて連絡することとなった。